

こんどう和也



近藤和也プロフィール

昭和48年(1973年)12月12日、中能登町(旧鹿島町)生まれ。鹿島町立滝尾小学校、同鹿島中学校、県立七尾高等学校、京都大学経済学部卒業。平成9年、野村證券株式会社入社、本社、大阪資産管理一部に勤務。平成19年、野村證券株式会社を退職、帰郷。平成21年8月、衆議院議員初当選。平成24年12月及び平成26年12月、衆議院選挙にて惜敗。平成29年10月、令和3年10月、令和6年10月に衆議院選挙に当選(現在4期目)。農林水産委員会、災害対策特別委員会にて筆頭理事を務め、いくつもの法案を実現。能登半島地震において、地元議員として先頭に立ち、被災者によりそい続けている。

地震から丸2年。現地に伺い皆さんの声を聞き続けてきました。誰もが望んでこのような状況になったのではありませんし、多くの方々と涙を流してきました。苦しさを共有し、解決策を探していく、災害対策に与党も野党も関係ありません。「出来ることは何でもする」だけではなく、「出来なかつたことも出来るようにする」これが大切です。給付金の新設や公費による一部解体など私の質疑によって実現できたことはいくつもありますが、解決できていない問題はまだまだあります。これからも皆様の元を伺い、制度や運用の改善を求めて続けていきます。

すべての取り組みは、
前に進むためにある。

いま、大切なのは 「一人一人の近く」にいること。

能登半島地震から丸2年。豪雨から1年半。公費解体が進み、町の風景は以前とは全く違う景色となりました。しかし、じっと、待っていることはできません。確実に前へ進めるために、その歩みを早めていかねばなりません。「出来ることは何でもする」だけではなく、「出来なかつたことも出来るようにする」その気持ちと行動で復旧・復興に寄り添ってきました。この情熱は変わることのない近藤和也の信念であり、政治活動のど真ん中です。国会において、能登の現状を伝え、地元の声を届け、いま必要な施策を政府に提言してきました。能登はこれからが正念場です。一人ひとりの暮らしを見つめ、語り合い、能登半島の復興を力タチにしていくことを約束します。

よりそい 続ける。

3 政治改革。政治とカネの問題からの卒業。

災害の支援で「手続きが面倒だ」との声を多く耳にしますが、その理由の一つは「性悪説」に立っています。被災者を信じることがなぜ出来ないのか。そもそもは予算を取り仕切る一部の政治家が裏金作りなど悪いことを行っているから、被災者を疑ってしまう。私は信じることから始まる政治を行いたい。もう政治とカネの問題を決着させ時が来ています。力を貸してください。

食料品をはじめ生活必需品の高騰は、私たちの家計を直撃しています。給料がなかなか上がらない、年金も上がらない中での物価上昇。節約を心がけていますがとてもおつかない。価格決定権のない中小零細小規模事業者が多い能登や河北都市では事業者の経営にも影響が出てきています。働く場所の確保、人手不足対策と人口減少対策のためにも、大都市や大企業に偏りがちな政策の転換が必要です。

2 物価高が、生活を直撃しています。

被災地復旧・復興へ、全力で取り組んでいます
生活に直結する物価高対策を急ぎます
守るべき農林漁業や小規模事業者を支援します
人口減少対策と教育環境の整備は未来への投資です
お金のかかりすぎない政治を実現します



現場の声を国政に反映。
議員立法の先頭に立つ。

こんどう和也 検索

<https://kondokazuya.com>

一所懸命!

期日前投票に行こう! こんどう和也に投票を。